

第61回 農林水産祭式典



第61回 農林水産祭が 開催されました



農林水産祭は、国民の皆さんに農林水産業と食に対する認識を深めていただくために、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が共催し、昭和37年から実施しているもので、今年で61回目となります。

農林水産祭では、過去1年間の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞された方々の中から、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞を選考し、表彰を行っています。

今回、林産部門では59の出品財を対象に審査を行い、天皇杯に渡邊定元氏（静岡県富士宮市）、内閣総理大臣賞に長倉良守氏（宮崎県宮崎市）、日本農林漁業振興会会長賞に穴井里奈氏（熊本県阿蘇郡南小国町）が選出されましたので、それぞれの選賞概要について紹介します。

令和3年度時点で、富士山南麓域1千ha余の森林所有者と森林経営受託契約を結び、森林経営計画を作成して持続的経営林づくりを実施することで、これまでに数千万円の間伐収益を所有者に還元してきました。



渡邊定元氏（静岡県富士宮市）

渡邊定元氏は、農林水産省職員や東京大学教授等を経て、定年退職後、株式会社白糸植物園を設立し、以後28年間、それまでの自身の研究成果を活かした「持続的経営林づくり」を進めてきました。

これは、将来木の候補の成長の妨げとなる準優占木を間伐対象とした中層間伐と、それによる同齡択伐林施業により、継続的に収益を得ながら、林齢150年生で100本/haの優良木が1千万円/haの資産価値を持つ高収益林を造成することを目標としています。また、大型フォワード走行を可能とした幹線作業道をはじめ、強度の降雨に耐えうる防災水源涵養路網の整備により、生産性の高い作業システムを構築しています。

天皇杯

渡邊定元氏（静岡県富士宮市）

「継続的な収益と150年後に高資産価値林を生み出す持続的経営林づくり」

内閣総理大臣賞

長倉 良守氏 (宮崎県宮崎市)

「斬新な発想による技術開発と安定供給システム構築による苗木生産」

長倉良守氏は、父から家業の畑等を継承後、株式会社長倉樹苗園を設立しました。令和3年度は裸苗65万本、コンテナ苗16万本、紙製ポット苗5万本のスギの林業苗木を生産し、宮崎県内スギ苗木需要の16%を賄っています。

穂木を自己調達する以外に森林組合等と連携して品種の明確な穂木を大量に調達する仕組みをつくり、毎年百万本程度の安定した挿し付けを行うとともに、夏場の冷蔵貯蔵技術や、培土を使わず穂木を発根させる「空中挿し木法」を組み合わせて、年間を通じたコンテナ用穂木の挿し付けを行っています。

また、紙製ポットを出荷規格外の裸苗に使用することで高い得苗率を確保することや、背負い式コンテナ苗用植栽機「ほるくん」実用化への共同開発に取り組みなど、斬新な発想による新たな技術開発にも積極的に取り組んできました。



長倉良守氏(宮崎県宮崎市)

日本農林漁業振興会会長賞

穴井 里奈氏 (熊本県阿蘇郡南小国町)

「多彩な商品開発とブランディングにより国内外へ小国杉の魅力を発信」

穴井里奈氏は、平成23年に夫の家業承継のため南小国町へ移住し、小国杉の歴史や南小国の自然に感銘を受けました。家業の製材の傍ら、夫婦で応募した「小国杉を使ったアロマビジネス」が平成27年にビジネスプランコンテストで最優秀賞を受賞し、これをきっかけに、平成28年、株式会社Forequeを設立し、小国杉を使用したアロマオイルや家具の企画・製作・販売をスタートさせました。

独学でエッセンシャルオイルの抽出を行うとともに、国内外のクリエイターと協働することによって独自性のある多彩な商品の製造・販売を行っています。従来の林産物のイメージを刷新するライフスタイルブランドを確立し、抜群の美的センスで小国杉の魅力を国内外に発信するとともに、地元観光地との連携事業により南小国町への集客にも大きく貢献しています。



穴井里奈氏(熊本県阿蘇郡南小国町)

実りのフェスティバル が開催されました

11月11日(金曜日)、12日(土曜日)の2日間、第61回農林水産祭「実りのフェスティバル」が、池袋サンシャインシティ(東京都豊島区)で3年ぶりに開催されました。会場では、天皇杯等の受賞者の紹介のほか、特産物の展示・即売会、農林水産業に関する特徴ある技術が展示され、多くの来場者で終日賑わいました。

林野庁は、「木づかい運動でウッド・チェンジ!」をテーマに、木造の高層建築物など建築物における木材利用に関する最近の動きについてパネルで紹介するとともに、ウッドデザイン賞を受賞した木の食器やストローなど身近な木製品を展示しました。来場者の皆さんには、木製品の美しさや木の香りを感じていただけたものと思います。

